

令和4年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画

学校運営方針	豊かな人間性をめざして高い知性と確かな学力を養い、進路目標の実現を図るとともに、自主性と責任感を養い、基本的な生活習慣を確立させることにより、明るく爽やかな生徒を育成する。
---------------	--

教育目標

- 1 学校教育に関する法規の定めるところに従い、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる能力と態度を育成する。
- 2 心身の調和のとれた成長・発展を目指し、豊かな心でたくましく生きていくことのできる人間を育成する。

指導方針

- 1 自主性の確立
 - 自分の考えをしっかりとつ習慣を身につける。
 - ア 客観的、総合的に判断して、知性ある正しい行動ができるような習慣を養う。
 - イ 高い価値を求める心情を育成する。
 - ウ 自分で自分を律することができる強い意志をもつ。
- 2 責任観念の養成
 - 自分の言動に責任をもつ生活態度を養う。
 - ア 困難に耐え、自分の仕事を積極的に全うする気力をもつ。
 - イ 働くことをいとわず、誰からも信頼されるよう心がける。
 - ウ 規範意識を高め、明るい社会の建設に励みあう連帯感を養う。
- 3 協力精神の育成
 - 相手の立場を考えて行動する心構えを育てる。
 - ア 相手を敬い、理解し得るような社会性を養う。
 - イ すすんで社会に奉仕する謙虚な心をもつ。
 - ウ 正しいエチケットを身につける。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
<p>【成果】 学校運営の改善につなげるため、生徒、保護者、職員へのアンケートを実施した。生徒における規範や安全・人権に対する意識を高める取り組みを行い、おおむね成果を上げた。</p> <p>【課題】 教育活動の充実に向けて、アンケート結果や意見を踏まえ、更なる教育活動に取り組む。また、生徒の進路希望実現のため、特色ある教育活動および生徒の学力向上をいっそう推進し、生徒自身が粘り強く取り組む意識を学校全体でつくり上げていく。また、心身ともに健康な生活を送ることができるよう支援する。</p>	生活習慣と学習習慣の確立を図り、バランスのとれた高校生活を過ごさせる。	教職員の共通理解の推進、遅刻の防止、適正な身なり、教育相談の充実、自己管理能力の醸成
	校内外の研修会への参加や自己研鑽により、教職員の指導力の向上を図る。	授業公開、校内研修会の充実、研修に対する教職員の意識の高揚
	生徒の実態に即した授業内容の改善とICT機器の積極的活用によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。	授業評価の実施、授業改善と課題の精選、家庭学習時間確保、生徒への個別学習指導
	総合的な探究の時間等を通じて、知識及び技能、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することで、自己と不可分な課題を発見し解決していく力を養う。	土曜活用・模擬試験・講演会・体験入学・進路情報等の充実・大学入学共通テスト受験奨励、探究学習発表会・食物科の試食会・音楽科の演奏会等の充実、活発な部活動

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
学校 経営	安全・安心な学校づくり	生活意識調査で、学校生活に「満足」「どちらかといえば満足」が80±5%。	生活意識調査において、高校生活に「満足している」「どちらかといえば満足している」との回答は、全体の82.0%であった。	B
	進路希望の達成	3学年当初の進路希望に対する達成率が80±5%。	年度当初の進路希望に対する達成率は、7割を上回る結果であった。	B
	組織的な学校運営	職員アンケートで、「組織的な学校運営がなされている」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が80±5%。	職員アンケートの結果は95%であった。運営委員会を中心に、組織的な学校運営がなされた。	B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
1 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。	生徒アンケートの結果では「よくあてはまる」20.2%「まあまああてはまる」49.0%で合計69.2%	C	B
	基礎学力の定着	スタディーサポート・進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。	4月スタディーサポートでは65.3%、1月進研模試では56.6%	A	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。	生徒アンケートの結果では「充実していた」51%、「どちらかと言えば充実していた」27%	B	
2 学年	家庭学習習慣の定着	家庭学習時間を毎日確保している生徒が80%以上。	生徒アンケートから「あてはまる」が17.0%、「ややあてはまる」が46.4%で合計63.4%	C	C
	基礎学力の定着	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒が50%以上。	11月進研模試の結果で国数英の平均学習到達ゾーンのランクがB3以上の生徒：普通科45.3%、学究77.3%、食物28.9%、音楽22.2%で学年全体：48.8%	C	
	学校行事、部活動への積極的な参加	年度末のアンケートで「充実していた」「どちらかと言えば充実していた」の回答が80%以上。	「充実していた」46.2%、「どちらかと言えば充実していた」34.4%で合計80.6%	B	
3 学年	学力の伸長	①模試のGTZのB2以上の割合で、2年2月進研マーク模試から3年11月ベネ駿模試にかけて10%アップを目指す。 ②生徒のアンケートで「学力が伸びたと実感できた」とする割合を60%以上とする。	①5教科総合GTZがB2以上の割合は2年2月進研マークが16.8%→3年11月模試が27.1% ②生徒のアンケートから「よくあてはまる」が24.1%、「まあまああてはまる」が51.8%で学年全体75.9%	B	B
	適切な進路情報の提供と進路希望達成のサポート	①生徒へのアンケートで「進路情報が適切に提供されている」と感じる割合が80%以上。 ②生徒のアンケートで「先生方は質問や相談によく応じ、サポートしてくれる」の割合が80%以上。	①生徒のアンケートから「よくあてはまる」が23.8%、「まあまああてはまる」が50.0%で学年全体73.8% ②生徒のアンケートから「よくあてはまる」が41.0%、「まあまああてはまる」が44.6%で学年全体85.5%	B	
	進路希望の達成	①大学進学における合格者を国公立60人以上、難関大合格者1名以上。 ②就職希望者の100%の内定者。 ③大学入学共通テスト出願率85%	①国公立大学合格者36人(3月10日現在)、難関大0人。 ②就職希望者内定率100%。 ③大学入学共通テスト出願率80.2%	C	
学究コース	学力養成・進路実現	3学年：進研模試でGTZ B1以上が30人、国公立大学合格者が30±5人。	11月進研模試GTZ B1以上5-8文9人、5-7理8人の合計17人 国公立大学合格者17人	C	B
		2学年：11月進研模試で英数国3教科偏差値50以上が50%、3教科学力A3以上が30%。	11月進研模試英数国3教科偏差値50以上が30.3%、3教科学力A3以上が13.2%。		
		1学年：スタディーサポート・進研模試の3教科学力A3以上が20%。	スタディーサポート・進研模試(3回)の3教科学力A3以上が平均18.8%。		
	家庭学習の定着	3学年：週30時間以上の家庭学習を行う生徒が60%。	12月の調査で60.3%		
		2学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が80%。	11月～12月の調査で34.6%	B	
		1学年：週23時間(平日3時間、休日4時間)以上の家庭学習を行う生徒が60%。	2月の調査で42.4%		

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価
国語科	授業力の向上	生徒アンケートを実施、【授業が「わかる」「できる」】項目の「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。年間通し全員が授業公開を行い、意見交換をする。	生徒アンケート【分かりやすく、内容がよく理解できる】に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が9割以上であった。全員が授業公開を行い、学年内で意見交換を行った。	A
	学力の伸長 1学年	1月進研記述模試「国語」で偏差値普通科50以上が60人以上。学究56以上が40人以上（昨年度81人、15人）。	1月進研記述模試「国語」普通科50以上71人 学究 56以上20人 普通科では目標値を上回ったものの学究コースでは下回っている。	B
	学力の伸長 2学年	2月ベネッセ共通テスト模試「国語」で偏差値普通科50以上が70人以上。学究56以上が25人以上（昨年度56人、17人）。	2月ベネッセ共通テスト模試「国語」普通科50以上84人 学究 56以上28人 目標値を上回った。	A
	学力の伸長 3学年	大学入試共通テスト「国語」で、平均点以上の割合が「国語」受験者の35%以上。（昨年度32.6%）。学究平均点が全国平均点以上。（昨年度-3.3点）	大学入試共通テスト「国語」本校受験者数236名 全国平均以上73名（31.0%） 学究平均点97.5点（-8.2点） 目標値を下回った。	C
地理 歴史 公民科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	全員が授業公開を行い、今後の授業実践に資する意見交換を科会で行った。	B
	授業力の向上	生徒アンケートの【地歴公民の授業が「わかる」実感ができた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて80%以上。	1年生が93.2%、2年生が89.2%、3年生が96.8%、 全学年平均96.5%	A
	学力の伸長	共通テストの各科目の平均点が全国平均点-5点以内。	中間発表で、本校全体での達成科目は公民3科目（現社-10、倫理-1、政経-4.9）、地歴科目はいずれも-5ポイント以上（世史-14.5、日史-16.9、地理-13.6）。	C
数学科	学力の伸長	3学年：大学入試共通テストの数学①で、自己採点が全国平均点以上の生徒40人。 2学年：進研2月マーク模試の数学①で、偏差値50以上が70人以上。 1学年：進研1月記述模試の数学で、偏差値50以上が100人以上。	3学年：13人 2学年：75人 1学年：56人 2学年では達成できたが、1、3学年では達成できず。	C
	授業力の向上	生徒アンケートの質問②【説明が分かりやすく、内容がよく理解できる】の項目の回答で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が合わせて80%以上。	全学年で82.7%の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答	B
理科	授業力の向上	よりよい授業実践のため、年間を通して全員が授業公開を行う。	よりよい授業実践のため授業公開を行った。	c
	基礎学力の向上	授業に関する生徒アンケートを実施し、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が80%以上。	授業に関する生徒アンケートを実施した結果、【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答が「当てはまる」「やや当てはまる」が92.0%であった。	A
	新学習指導要領への対応	観点別評価に基づいた、授業改善の取り組みを進める。	主体的・対話的で深い学びの実現のために、授業公開後に意見交換を行う等の授業改善の取り組みを進めた。	B

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
保健 体育科	授業力の向上	よりよい授業実践を実現するため、年間を通して全員が授業公開を行うとともに、科会を通じて意見交換を行う。	新採用研修等を通じて、年間を通して公開授業を行い意見交換を盛んに行った。	B	A
	基礎体力の向上	体力テスト総合判定において、C判定以上を70%、B判定以上を30%とする（2.3年次は前年度との比較も行う）。	今年度の体力テスト総合判定においてC判定以上77.6%、B判定以上41.1%であり達成できた。（前年度比較C判定以上、B判定以上は若干下がった。）	A	
英語科	学力の伸長	1学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を2割が取得。 2学年：11月進研模試で偏差値50以上が60人以上・CEFR-JがA2.2以上（英検準2級相当）が4割以上 3学年：11月ベネッセ駿台マーク模試で偏差値50以上が60人以上・英検準2級以上を4割以上が取得。 CEFR-J A2.2レベル以上が40%以上。	1学年：11月進研模試で偏差値50以上が69人。英検準2級以上を7%が取得。2学年：11月進研模試で偏差値50以上が75人。CEFR-JのA2.2以上が82名。英検準2級以上87人、約26%が取得。普通科、普通科学究コースは「GTEC」奨励賞を受けた。3学年：11月ベネッセ駿台共通テスト偏差値50以上48人・準2級以上33%。	A	A
	授業力の向上	生徒アンケートの【授業が「わかる」「できる」が実感できた】の項目の回答で、「当てはまる」「やや当てはまる」が合わせて8割以上。	生徒アンケート【分かりやすく、内容がよく理解できる】に「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した生徒が9割以上(93.5%)であった。	A	
食物科 ・家庭	専門調理技術を習得し、進路希望を実現する。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が80%。 専門教育を生かした進路の実現が75%。	食物調理技術検定学習を通じて「技術向上に主体的に取り組めた」生徒が92.5%。専門教育を生かした進路の実現が70.0%であった。	B	A
	食の総合的実践への取り組み	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.2。	校内試食会において、自分の役割に対し「積極的に責任を果たした」とする生徒の5段階評価アンケートの結果が平均4.6であった。	A	
	生活技術の向上	家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が75%。	家庭総合において、生徒アンケートで「家庭科の授業をとおして生活技術の向上がみられた」と答える生徒が97.5%であった。	A	
音楽科 ・芸術	芸術性豊かな演奏家・音楽教育者の育成	音楽科で習得した知識や技術を生かした進路の達成率75%。	音楽科で習得した知識や技術を生かした進路の達成率が85%であった。	A	A
	アンサンブル活動をとおして協働する力の向上	重唱重奏や合唱合奏の科目において、他のパートと協働し、共に音楽を創り上げることができた生徒が80%	生徒アンケートで、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答えた生徒が合わせて97%であった。	A	
	表現力の向上	音楽・美術・書道の科目の各選択において、生徒アンケートで「芸術の授業をとおして自己表現ができた」と答える生徒が75%	生徒アンケートで、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答えた生徒が合わせて96%であった。	A	
情報科	情報活用技術の向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報活用技術の向上がみられた」と答える生徒が85%。	情報科の授業において、生徒アンケートで、よくあてはまる(39.7%)とややあてはまる(46.0%)を合わせて85.7%であった。	B	A
	情報モラルの向上	社会と情報において、生徒アンケートで「情報の授業をとおして情報モラルの理解が深まった」と答える生徒が85%。	情報科の授業において、生徒アンケートで、よくあてはまる(56.4%)とややあてはまる(36.3%)を合わせて92.7%であった。	A	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
学習指導 (教務)	授業力の向上	よりよい授業実践のため、授業公開月間を年2回設定し、年間をと おして全員が授業公開を行う。 また、教科会において各教科で授 業改善のための意見交換を行う。	・ほぼ全員の教諭・常勤講師 が授業公開を行った。 ・教科会の実施を教務部と して設定することができなかつ た。	B	B
	基礎学力の向上	生徒に学力の伸長を感じさせられ るような授業改善を図る。 全員が授業に関する生徒アンケ ートを実施する。(よくあてはまる +ややあてはまるの割合) 『興味・関心、学ぶ意欲が高ま る』(80%以上)『説明が分かりや すく、内容がよく理解できる』 (80%以上)『授業の進め方に工夫 がされていると感じる』(80%以 上)『予習・復習などをしっかり 行い、理解が深まるように努めて いる』(70%以上)『自分の学力が 伸びていると実感出来ている』 (70%以上)	・生徒アンケートの結果(よく あてはまる+ややあてはまる の割合 ▼は目標を下回った) 『興味・関心、学ぶ意欲が高 まる』(92.2%)『説明が分かり やすく、内容がよく理解でき る』(93.2%)『授業の進め方に 工夫がされていると感じる』 (93.1%)『予習・復習などを しっかり行い、理解が深まる ように努めている』(64.9%▼) 『自分の学力が伸びていると 実感出来ている』(73.6%) ・生徒の授業への満足度は高 いが、生徒に学力の伸長を感 じさせられるような授業改善 が必要である。教務部として どのような働きかけが可能か 検討する。	B	
生徒指導	校則に基づき、服装・頭 髪等の指導を行う	職員の共通理解のもとに頭髪服装検 査を行い、各回の校則違反者を各学 年6人以下とする。違反者の頭髪服装 を修正させる。	頭髪服装検査を予定通り行 い、各学年と協力して違反者 の指導を行った。体育祭等の 行事の際、特に頭髪の乱れが あり、指導を強化する。	B	B
	交通安全指導及び各種周 知等を充実させる	交通安全について継続的に指導し、 昨年度から交通事故件数を減らす。 相談機関紹介や長期休業中の心得等 を定期的に発出し、生徒の校内・校 外の生活を充実させる。	交通事故は昨年度の5件から 0件となった。左記紹介を教 室掲示や生徒保護者への周知 として定期的に行い、心得等 も定期的に発出できた。	A	
	安心・安全な環境で共感 的な人間関係を育む	スマートフォン等の利用に関して継 続的かつ段階的に指導する。またい じめアンケート等を活用し、人間関 係トラブルを未然に防ぎ、トラブル が起こった場合は迅速に委員会を開 催し解決に努める。	学年を問わずスマートフォ ンの指導を受ける者が多かつ た(1年17名、2年11名、3年 11名)。いじめアンケートを 延べ6回行い、いじめ対応委 員会を迅速に開催して人間関 係の修復を図った。	B	
進路指導	進路に関する有効な情報 提供	学年集会時での講話や学習環境整 備の内容及び配布物・刊行物の活 用等について「有効」、「ある程 度有効」とする教員・生徒・保護 者が80%	保護者は82%、1年生は 72%、2年生は57%、3年生は 73%、生徒全体で67%であつ た。	B	B
	進路目標の達成	・1、2年：11月進研模試の結果で国 数英の平均学習到達ゾーンのラン クがB3以上の生徒が50%以上 ・3年：共通テスト出願率85%以上、 国公立大学合格60名、難関大合格者 あり、就職希望達成100%	進研模試B3以上は1年生 51%、2年生49%であつた。 共通テスト出願率80.2%、 国公立大合格者36名、難関 大0人。就職希望者内定率 100%。	C	
保健 環境	学習環境の整備を積極 的に推進する態度の育成	生徒アンケートで「普段の清掃は まじめに取り組んだ」の回答が 80%以上。	「普段の清掃はまじめに取 組んだ」の回答は「よくあてはま る」「まあまああてはまる」を 合わせて99.3%であつた。	A	B
	心身の健康問題の早期発 見・対応による重症化防 止	生徒アンケートで「先生方は悩みを 十分聴いてくれた」「どちらかとい えば聴いてくれた」の回答が80%以 上。 日常の相談活動、関係職員との連携に より保健室頻回来室者(年10回以 上)を50人以下。	「先生方は悩みを十分聴いて くれた」「どちらかといえば聴 いてくれた」の回答は合わせて89% であつた。 日常の相談活動を関係職員と連 携して取り組んだが、保健室頻 回来室者(年10回以上)は102人 であり、50人を上回った。	B	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
生徒会指導	学校行事で自分の役割を果たして活動する。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、どのような役割を果たし、どのような活動をしたかを具体的にあげてもらうとともに、「貢献度（自己満足度）」が90%以上	生徒たちは自分たちの役割をよく考えて行動していた。アンケートについても生徒の満足度はどの行事も90%以上だった。	B	B
	学校行事が充実している。	行事ごとに、生徒へのアンケートを実施し、「充実している」が90%以上。	今年度は中央祭、規模を縮小して秋桜祭を行うことができ、アンケートについても生徒の充実度はいずれも90%以上だった。	B	
	生徒会執行部員のリーダー性の育成。	年度末に生徒会執行部へアンケートを実施し、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が80%以上。	執行部にアンケートをとった結果、「全校生徒から理解と協力を得られたと感じる」が75%であった。運営のやり方について、今後更なる工夫が必要である。	C	
図書 視聴覚 情報	知的好奇心を高め読書活動の充実につなげるための情報提供	生徒及び職員アンケートで「図書館や図書の情報が随時発信され、高校生活や読書活動に役立った」「どちらかと言えば役立った」の回答が80%。	生徒アンケートが58%にとどまった。GoogleClassroomによる発信を見る機会が少ない。発信後の周知方法を検討する必要がある。	C	B
	視聴覚機器・機材の維持、管理とともに操作手順の習得に努め、効果的な活用を図る	職員アンケートで「時間・場所等、適材適所に応じて、情報関連機器や視聴覚機器機材の運用がなされているか」について「そう思う・どちらかと言うとそう思う」が90%。	職員アンケートの結果は91%今後もっと利便性を高めていきたい。 配信など、他分掌の業務を請け負うことが多く行事が重なると重労働であった。各分掌で処理できるように研修を充実したい。	B	
	情報関連機器の維持、管理とともに操作法などをサポートする。また、日常の教育活動を積極的に情報発信する。				
総務	PTA活動の活性化及びPTA総会等の参加率向上	保護者の25%以上がPTA関連行事に参加。	中止になった行事もあったが、実施できた行事には多くの保護者の参加を頂いた。中央祭では400名を超える3年生保護者の来校があった。1学年保護者対象進路講演会も参加者が100名を超えた。	A	A
	PTA役員による中央グッズの企画、販売	学校への関心をより多くの人に持ってもらうことを目的に、中央グッズの企画と保護者への周知を積極的に行い、昨年度より多くの人に購入していただく。	秋桜祭では中央グッズの販売は実施できなかった。中央祭では3学年の保護者のみの観覧で、グッズ販売は本校職員で対応した。	A	
人権教育 同和教育 男女平等教育 推進	人権教育、同和教育、男女平等教育についての共通理解を深める	各種研修会等に参加し、研修内容を教職員に報告、周知することなどにより、人権教育、同和教育、男女平等教育についての全職員の共通理解を深める。職員アンケートを実施し「研修会報告によって理解が深まった」との回答が85±5%。	各種研修会には、ほぼ委員のみの参加であったので次年度は全職員に呼びかけ周知をさらに図りたい。職員アンケートを実施したが、回収率が6割にとどまった。しかし、「理解が深まった」とする内容に対し、90%以上で「どちらかといえばそう思う」という回答が得られた。	C	B
	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する意識向上をはかる	人権教育、同和教育、男女平等教育に対する啓発を目指し、校内で全校生徒及び教職員対象の講演会を実施し、全体的な意識の向上を目指す。講演会后、生徒及び教職員にアンケートを実施する。生徒アンケートにおける「講演の内容が理解できた」との回答が85±5%。職員アンケートにおける「講演会によって理解が深まった」との回答が85±5%。	今年度の講演会は、男女平等教育推進を目指してデートDV防止を啓発し、生徒アンケートで「役立つ内容だった」との回答がどの学年も90%以上だった。職員の満足度も80%を上回った。	A	

分野	具体的目標	Bとする評価基準	取組の結果	評価	
特別支援教育推進	生徒への支援、教員間の情報交換と共通理解	スクールカウンセラー等との連携や実態把握リストの作成により、悩みを抱える生徒の情報や対応を職員で共有し、「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」とする職員の割合が75%。	「生徒の対応に役立てることができた」「どちらかといえばできた」合わせると88%であった。	A	B
	個別の指導計画の作成と個別指導	支援が必要な生徒に対して、個別の指導計画を作成し、「計画的・組織的に指導を行うことができた」「どちらかといえばできた」とする割合が70%。	「計画的・組織的に指導を行うことができた」「どちらかといえばできた」合わせて63%以上であった。	C	
成果と課題	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながら、ICT機器を利活用し、生徒の進路希望実現に向け、生徒の学力向上や特色ある教育活動を一層推進して成果を上げた。次年度も学校全体で、生徒自身が粘り強く取り組む意識を醸成する。</p> <p>また、職員研修を行い、生徒の規範や安全・生命・人権に対する意識を高めることにつながった。いじめ問題に対しては、全職員の共通認識のもと、組織的な対応ができた。スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実に取り組んだ。今後も生徒が心身ともに健康な生活を送ることができるよう継続的に支援する。</p>			総合評価	B